

SAH×受験模試を最大限活かす～2学期に向けて～

夏休み中の全統模試(希望者)、お疲れ様でした。夏休み前に受けた7月進研模試の結果も返ってきましたね。みんなが最終的に目指すは“自身の進路実現”。行きたい大学に行くために必要な「受験学力を身に付ける」というのが、勉強をする大きな目的の一つです。校外模試は、現在におけるあなたの学力の立ち位置を全国レベルで教えてくれます。現在の苦手な分野を教えてくれます。「大学受験はこういうものなんだ」というレベルや量を教えてくれています。今号では、模試の意義を人一倍理解し、模試の活用について一緒に考えていきましょう。(編集 教頭)

『模試は、“あなたの現在の立ち位置を教えてくれる”最高の先生』

模試を最大限活用する！～模試の活用次第で、実力に差が出る！＝結果に差が出る！～

a “模試は本番のように、本番は練習のように”

前日の準備から当日のシミュレーションができる。制限時間があり、ある程度の緊張感の中で試験を受ける練習になる。



b 模試が受験勉強のペースメーカーになる。

c 得意分野と苦手分野がわかり、今後の学習戦略を立てることができる。

d 大手予備校の作成した良問、予想問題をゲットできる。

e 模試の復習を3回(模試を受けた日、返却日、長期休業中)

- a 模擬試験なのだから、本番の共通テストや個別試験をイメージしてやる。緊張して受けられるようになったら勝ち。一方で、解いていく順番をどうするか、どの問題を捨てて合格点を積み重ねるかなどのシミュレーションができるのも模試で。
- b 特に1、2年生は定期考査と同じで模試の出題範囲や形式・レベルを知って、今の自分の学力や志望校をイメージして、何をどこまでやるかというプランニングをしていくのだ。
- c 模試は受け終わった後の対応の方が大事。何が苦手(穴)か、どこが通用しているか、などの今後の勉強の方向性を明らかにしてくれる。「国語ができない」というざっくりなものではなく、「句法をしっかりとったから漢文ができています。しかし、古文が取れていない→次の11月の模試までに古文単語と古典文法を徹底的に入れよう」というあなたに合わせた学習の方向性が明らかになる。
- d ベネッセや河合塾は、「◎◎模試の問題が、共通テストの第▲問に出題されました！」ということを狙っている。つまり、予想問題を作って出題してくれているわけだ。模試で出題された問題をできるようにしておくことは、本番の試験で当たる可能性を高めるということ。
- e 勉強する目的の「明確なレベルの問題」なわけだ。これを自分のモノにする、次に出題されたときに仕留めるには上記の時に復習するのが一番効率的だ。大学受験が終わってから復習する意味は無いよね。即、実行！

1年生

7月の進研模試が、大学受験を見据えた初の全国模試でしたね。進研模試は大学受験の基本レベルの問題です。中学校までの学習範囲から覚えるべき量やスピードが大きく違うことに気付いてくれたと思います。そこに気付いたら、“腹をくくって”「大学受験はこういうものなんだ」とこれからの普段の学習に対する姿勢に還元してください。具体的には、「受験レベルの基礎をしっかりと」「難しい問題にもくらくつく」。この2つ

のシンプルな心がけで、成績はぐっと上がります。2 学期から学習面で「真の前南生」になっていこう。

2年生

範囲が 1 年既習範囲から 2 年 1 学期まで入ってきて試験範囲が広がっていき、レベルも上がってきたことに気付いてきたところだと思います。さらに、11 月の進研模試から 3 教科+理科社会情報(例えば理系では専門の理科が入ってくる)など、教科数も増えます。これは「全国で勝負する大学受験。全国ではこれがスタンダードですよ」と模試を作る大手予備校が教えてくれているのです。そこに気付いたら、「大学受験はこういうものなんだ」とこれからの学習に対する姿勢に還元してください。範囲が広がってレベルが上がっているのに、1 年生の時の意識のままでは相対的に成績は下がります(全国のライバルに置いていかれます)。1 年生の時の志望校からランクを下げる人の場合、多くはその人の力が限界に達したからではなく、2 年生での努力不足、中だるみが原因です。そこに気付いたら、「大学受験はこういうものなんだ」、「まだまだやるべきことはたくさんある」と受け止めて、自分の、前南生の底力を信じて、2 学期から学習に対するギアを一つ上げて将来の自分、受験に対するベクトルを“太く”してください。ここでギアを上げられた生徒が 500 日後に栄冠を勝ち取る！

3年生

国公立 2 次試験まであと 6 か月強ある(後 185 日)。共通テストまであと 5 ヶ月弱(後 145 日)ある。明日が本番なわけではない。地に足を着けて文を読んでください。

模試が「穴」を教えてくれている。そこを慌てず潰(再入力)していく。「模試の結果が返ってきて D 判定だった、ヤバい」のはその結果が「本番」の時。その点が本番なら落ちているから、それは当然ヤバい。模試の結果は 1 か月前のものであり、「できなかった、本番でなくて良かった。次に、本番までにできるようにする」、その時間は十分にあります。「模試の結果が返ってきた、合格ライン(ボーダー)まで何点足りないんだ[距離を測る]。この科目で○点、あの科目で△点、残りの 6 か月で上げていこう」、その時間は十分にあります。あきらめるのは「自分」だ。最後まで頑張ろうとするのも「自分」だ。夏休みの成果が出るのは早くて 1 か月後(暗記中心の科目など)、だいたい「3 か月後」と言われている。それって 11 月だよね。夏休み頑張ったことを無にしないために、あきらめず勉強していく。そして、二学期は模試が増えます。「ただ受ける」だけでなく、その時点での自分の弱点の確認、入力など最高に有効に模試を活用していこう。



7~8 月の模試をやったことによって、課題をあぶり出す。課題克服のために何をすべきか考え実行する。シンプルに 2 学期からの授業・学習に対する姿勢に変化が出れば、あなたの勝ちだ。